

平成30年度第1回長崎県観光審議会 会議結果

1. 日 時 平成30年10月10日(月) 13:30 から 16:30 まで
2. 場 所 ホテルセントヒル長崎2階「妙見の間」
3. 出席者 安徳会長、西川副会長、納富委員、矢口委員、河野委員、横山委員、道津委員、納富委員、福田委員、川口委員、柚木委員、山口委員、渋谷委員

4. 議 事

- (1)副会長の選任について
- (2)市町観光地づくり実施計画について
- (3)長崎県観光振興基本計画の実施状況について

5. 委員の主な発言

【市町観光地づくり実施計画について】

<波佐見町>

- ・波佐見長の強みは窯業であり、屋内で出来る体験が多く、天候の変化に強い観光地になりうると思われるため、体験を利用しやすくする仕組みづくりを盛り込むべき
- ・波佐見焼が若い人たちに好まれている現状から、若い人向けにブランド発信するなど、他のブランドと差別化するような戦略も必要で、併せて、サイクリングなど若者を意識した取組みも必要ではないか
- ・誘客ターゲット別に情報発信するよりも、若い人向けなのか、少しお金に余裕がある層なのか、ターゲットの絞込みをした方が良い
- ・推進体制のところで住民を巻き込んだDMOの仕組みづくりに期待する

<松浦市>

- ・「食」は大切な旅行素材のひとつで、「アジフライの聖地化」の取組は大変興味深いですが、何が「聖地」で、何で「聖地化」なのかをうまく伝えないと、単なるキャッチーな言葉だけで終わってしまう恐れがある
- ・健康長寿の時代を迎えるにあたって、「アジ」がヘルシーであることを強調することで、シニア層の取り込みも期待できないか
- ・季節限定とか、そこでしか食べられないとか、付加価値をつけることが大事で、「アジ」の水揚げ日本一だけでは「聖地化」は難しいのではないか
- ・インバウンド受入にあたっては、言葉よりもおもてなしの気持ちが大事な場面もあるため、受入強化にあたっては、外国語の講習以外に、異文化を理解するような講習も必要

【長崎県観光振興基本計画に掲げる事項の実施状況について(H29)】

- ・ビッグデータをオープンデータ化して、できるだけ地元のいろいろな観光関連の事業者が日常的に使えるようになれば更に有効に活用できる。また、各種データはどれだけタイムリーに提供することが出来るかが重要なので今後はそうした仕組みづくりにも取り組んでほしい。